

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900109		
法人名	フロンテアの介護		
事業所名	グループホーム おみがわの憩		
所在地	千葉県香取市野田714		
自己評価作成日	令和 4年 3月 10日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和 5年 3月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」をモットーにご利用者がサービスを提供されるだけの場ではなくご自身の有するちからに合わせながら、できる事を「ゆっくり」と他のご利用者様やスタッフと「一緒に」「楽しく」生活を送れる様に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所として良い点①法人理念①介護のスペシャリストとしてご利用者様ファーストであることを約束します。②ご利用者様に対して「なぜ？」の心を持ち追求し、必ず笑顔にする努力を惜しみません。③社員、その家族の物心を追い常に笑顔になれる努力します。の理念遂行について特に「なぜ？」に力を入れている。些細な表情・行動について変化の気付きを申し送りに記入し話し合いを行なっている。特に新入職員とは会話を多く持ち、どうしたら利用者の笑顔に繋がったかを検討する事で仕事への理解が深めている。②毎日のブログ更新で利用者の笑顔や施設の雰囲気や月一回の家族への通信では写真を添付し日頃の様子を伝えている。支援の内容を「見える化」する事で利用者家族への安心と安全を担保すると共に職員の仕事への姿勢も緊張を持つ事ができる点である。③地域との連携は「つくし会」を中心に良い関係が継続されている。コロナ禍でイベントが中止に経っている今、解消された時に何を行なうかの検討が行なわれている又近隣の高校の福祉科の学生の職場体験の復活に向けて準備が行なわれる等地域との関係性が構築されている。④看取りを経験した今、利用者家族のニーズに対応すべく準備を行ない態勢を整える事で介護の仕事への自信とやり甲斐に繋げようとしている前向きな姿勢の施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は「ゆっくり・いっしょに・楽しく」であり、職員の意識への働きかけを行っている。また、ご利用者様のペースに合わせて可能な限り一緒に家事等行う様に心がけている。	企業理念3項目(表紙参照)の実現の為、施設での行動指針を職員と話し合い「笑顔の励行」と決め笑顔を忘れない支援に努力を続けた事で利用者との信頼関係が向上し、支援にもやり甲斐と自信となっている。その中で職員が各々自分が考えた「なぜ？」を考え、気付きを申し送り共有する事で理念の実現に努力が行なわれている。	昨年度の標語が達成したと考えられる今職員と話し合い、新しい標語の下で理念が実践される事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は野田つくし会の事業所として参加していましたがコロナにより現在参加見送っている。	「野田つくし会」との連携は密であり、コロナ禍が終焉に向かう今何が出来るかを健検討っていて、近くの高校の福祉科の生徒の職場体験がどうしたら安全に行えるか等地域との関係継続に向けた準備を行なっている。地域との連携は施設の長所として今後にも継続する事を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は野田つくし会の委員として参加していましたがコロナにより現在参加見送っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は運営推進会議は2か月に1回開催していましたがコロナにより現在は控えています。	例年は奇数月の第4火曜と決め市の担当者・地域包括・民生委員・区長・つくし会・家族が参加し年6回の計画であったがコロナ禍の為実施方法を変更し、アンケート・質問を書類にて郵送し返事を議事録に纏め改善に繋げる会議としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市で開催されているネットワーク会議・地域密着型サービス事業所連絡会等で情報の交換や相談等を行っている。	香取市高齢者福祉課・社会福祉課とはいつでも相談できる関係が有り生活保護受給者の受け入れには相談・連絡している、又感染症情報のインフルエンザ・ノロウイルスなどはメールで受け取っている。認知症講座等研修 情報もなるべく参加する様にしているが介護福祉士資格者が多く居るので中身を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行っており全てのスタッフに周知を行っている。	身体拘束委員会を毎月開催し拘束はしない方針の下で支援が行われている。具体的な事例検討会も法人からの資料を使い拘束の定義の理解と実践に活かしている。日中の施錠はしないで出掛ける人には見守りで付いて行く支援を行っている。グレーゾーンのスピーチロックには全体会議で取り上げ理念の声掛けの具体的な説明で指導し理解できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターの貼り出して虐待に関する研修を実施している。また、虐待のメカニズムについても職員へ周知するとともに疲労やストレス軽減にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については契約書、重要事項説明書について説明し同意を得ている。不明な点は、質問して頂き納得されるまで質問して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はコロナにより現在中止しており、事業所ブログを毎日更新し公開してご利用者様の現状や普段の生活の様子等ご家族様、運営推進会議等で御覧頂いている。	家族の来訪時には状況の説明と共に希望・要望や、分からない事など、又来られない家族には電話で連絡を取り現状の報告の中で希望・要望・改善等を検討し、ブログを見た家族からの質問などにも対応が行なわれ、参考になる意見には話し合いの中から改善に繋げる仕組みで取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々で相談や意見の提供をする職員もあり、また全体会議でも意見や提案を上げる場を設けている。	理念にある「なぜ？」を感じる力をアップさせる為各々が感じた気づきを申し送りに記載しなぜこのような行動や表情になったのかを皆で話し合っている。些細な気付きや・ヒントでも、意見を交換し易い雰囲気大切と考え、常に希望・要望・不満など何でも話せる雰囲気作り配慮し意見を尊重している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って仕事ができる様、給料、賞与に反映し人事課の整備に勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月管理者、リーダーの研修をズームで行いリーダー研修にては学んだことをその月の勉強会にて職員と共有。している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナにより香取市ネットワーク会議参加しているが。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にてご本人様の困っている事に焦点を当てながらアセスメントを行っている。また表面上での問題点以外でも今後起こりうる問題点にも焦点を合わせて面談する様に勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・面談にてご家族の抱える不安や問題点に細かく聴取するよう努め、その不安に対してのどう支援を行っていくかの説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時や見学時に現在困っている事を聴取るし入所によって問題点が軽減または解決されるか把握し他のサービスが適している場合や入所条件に当てはまらない場合は説明や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の能力を把握に努め掃除や洗濯等日常生活を共に行う様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様について細かく、報告、相談を行いご家族様から意見要望が言いやすい環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナによる感染予防の為、面会は控えている。	施設の特徴であるブログを発信することで利用者家族に笑顔や雰囲気を与えている事が家族との関係継続に繋がっていると確信している。苦手な人が多い事を踏まえ、若い家族からの波及効果でブログをみて頂ける家族が増える事を期待している。又機器に疎い家族の為面会場所を設けて対面を実施した。なんとか家族との絆の継続を色々な仕組みを考えて実施している点は評価したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を大切にせず座席等の配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にも、困ったことがあればいつでも相談におうじる旨をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を大切にしながら、ご本人様が何を望まれているか何を必要とされているかの把握に努めている。	入所時家族から生活歴・趣味・嗜好をアセスメントに記録し、入所後は話す機会を多く取り入浴時等1対1の会話から気づきがあれば申し送り情報共有し把握につ努めている。分からない点・疑問点には家族と相談し本人の思いを探っている。ユニット会議では毎日の記録を基に職員で話し合いケアプランに反映させている。	個人の情報集約にはセンター方式等、情報が積み上げる仕組みの採用を検討し、職員全員が共有出来るような仕組みの構築を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を大切にしながらご本人様が望まれているか、必要とされているかの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時には、生活歴・家族構成・入所前の1日のタイムスケジュールを把握を行っている。また、入所前に介護サービスを利用されている場合は居宅ケアマネージャーとの連携・情報の交換をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や介護計画見直し担当職員、ご家族様・ご本様の意見、要望を介護計画反映出来る様に努める。	ユニット会議で職員の気付きの記録から意見を出し家族の希望・要望を取り入れリーダーが纏めケアマネが介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い評価した新たな課題について話し合い6ヶ月毎に又変化ある時は随時計画は変更されている。タブレットに細やかな項目をチェックし記録が保存されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを使用し記録を行っている。小さな変化にも個人記録に残すよう統一し職員全員が共有を行いケアプランの見直しの際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ感染の恐れがある為、外泊等中止している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの感染予防の為不定期にこちらから訪問し、内容を聞いて行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関での往診による健康管理を基本としている。また希望に応じて馴染みの医療機関への受診お行っている利用者様もいる。契約時にご家族様の希望を確認して対応している。	認知症外来等のかかりつけ医の継続受診は管理者等が同行し、アイパッドとケアプランにより情報提供して支援している。利用者全員は訪問診療が行われ薬の処方や血液検査等が行われている。また、月2回訪問看護師の健康管理と心身状態の報告・相談が行われている。体調変化時には医師の指示を受けて受診し、外科・精神科の専門病院の受診も行われ、意思確認が必要時には家族に連絡し支援が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診先の看護師が月に2回体調確認に来ており、変化や相談内容があればその都度伝えている。医師との連絡も取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必ず介護サマリーの提供を行っており、主治医及び担当看護師と退院まで連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についての意向確認を行うと共に当ホームで対応可能な範囲の説明を行いまた不可能となった場合についての支援についても説明を行っている。また、状態に変化が生じた場合等には、考えられる今後の経過についてのご家族様や主治医との相談・連携を取りながら対応している。	今年度看取りを経験した。昼になった看取りで医師と家族への連絡などなんとかやり遂げる事が出来た。結果家族からの「ありがたい」の言葉を頂き仕事での重要性を感じている。家族への経緯の説明と同意、医師との連携など、職員と管理者の連携など課題は大きいと感じている。	法人としてマニュアルの整備、職員の負担軽減の為の研修、事例検討会での経験の習得などの整備が急がれる。経験豊かな法人他施設の職員の交流などで素早い態勢作りを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急、急変対応マニュアルを用意している。全体会議で心肺蘇生、AED使用方法を確認している。緊急連絡を作成し連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナにより避難訓練が行えずにいた。また以前台風、洪水勧告がでた際にご利用者様をスムーズ2Fに移動できたので継続して訓練している。	消防計画書を作成し、夜間想定では手順書により職員の役割を決めて「初期消火・通報・避難誘導訓練」が行われ、連絡網を活用して近い人順に電話をして何分で来れるか測っている。また、地震想定では「情報収集・避難経路の確保」や津波対応として避難所まで歩いて行っている。消防設備や備蓄の点検し、カセットコンロ・ランタン・養生テープ・保存食の補充を行い、火器点検を毎日行って予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お1人お1人の性格に合わせて馴染みの言葉を用いたり工夫を行っている。基本的に否定はせず肯定する事を心がけている。	理念に掲げた「利用者に対し「なぜ?!」の気持ちで少しの気づきでも話し合いを行ないフェイスシートで情報を共有し利用者に寄り添った支援は何かを考えている。馴れ馴れしい言葉遣いや抑圧的な接し方には職員同士が注意し合い、利用者の笑顔が少しでも多く見られる支援に努力している。食べ物の好き嫌いにも多くの選択肢で選んで貰う等自由・自立を尊重している。居室にはノックし、トイレ・風呂では扉を閉める等プライバシーに配慮している。	利用者の「なぜ?」を理解する為の笑顔の励行で利用者の理解が進んだと考える今、新しい標語は何かとの聞き取りの中で「か?」付きで終わる会話はどうかとの話があった。利用者の意思の尊重と尊厳に配慮した会話との想いを新しい標語とし、法人理念の実現を目指す事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせて、自己決定出来る事はご自分で選択して頂くように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるがその中でご本人様の意思で決定して頂いており、食事の時間、入浴の時間等、気持ちや体調に合わせて変更する事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝洗顔、整髪等の整容を行っている。更衣は、可能な限り着る服をご自分で選んで頂いて。また、ヘアカラー望まれてる方は職員が入浴前に毛染め行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、有する能力に応じて職員と一緒にしている。またお1人の嗜好に合わせて食べられない物は代替え食用意し、咀嚼や嚥下の状態に合った形態での提供を行っている。	職員が畑で獲れた季節の「ほうれん草・しし唐」等業者からの食事に一手間加え見栄えを工夫したり、「刻み等」食形態の工夫をしている。利用者は「もやしのひげ取り・食器ふき等」出来る事を手伝っている。園庭でのパーベキューやたこ焼き等楽しみな食事をイベントとして行ない、ブログで発信している。夏祭りやクリスマスには特別食を企画して食事を楽しむ様々な工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は1日を通してタブレットに記録を残して1週間のトータルも把握出来る様になっている。摂取量や栄養面に関しては主治医との連携を図りつつ個別で対応行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お1人お1人のの能力に応じ合わせて支援している。口腔ケア後は記録に残している。		
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、日中帯オムツ使用者は1名であり、できるだけトイレでの排泄が行えるように能力に合わせて支援して行っている。	排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握、時間で声掛けをしてトイレに座っての排泄を大事にして支援している。また、落ち着かない様子や立ち上がる等、サインを見逃さないようにし、行きたくない人には返事をしてもらって声掛けの工夫をして誘っている。便秘時には医師の指示で内服薬でコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動量等を考慮してして、便秘予防に努めている。機能的にコントロールが難しい方は主治医と連携しできるだけ自然排便が出来る様に支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴行い、体調や気分に合わせて日に変更も行っている。入浴時は職員とご利用様の1対1での介助にてプライバシーの配慮と共にゆっくりと入浴が行えるように支援している。	週2回、日を決めて利用者全員の入浴を行い、風呂の日を作る事で空いた時間を利用者に関われる様にしている。利用者の順番や時間のこだわりも尊重し、入浴を嫌がる人も声掛けを工夫して当日に入浴をしている。浴室ではヒートショックや転倒に注意し、危ない人は2人介助をし、浴槽に入れない人はシャワー浴をしている。皮膚の点検をし状態を見て看護師に連絡をする事例もある。湯船ではリラックスして話や歌を歌い楽しい時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様自身がお好きな時間に居室に行かれ休まれています。また消灯点灯は習慣の把握に勤め安心して環境で入眠出来る様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、常に職員が閲覧できる場所に個人ファイルにしまっている。かかりつけの薬局と情報の確認している。内服時は必ず職員2人で名前と日付を確認して誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、洗濯物干しや畳み等できる方には役割として取り組んで頂いてる。また趣味等ご本人に興味がある会話をしながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感により買い物には行かず近所の散歩や車のドライブに支援に努めている。	天気の良い日には公園に散歩やスーパーへの買い物に行っている。コロナ禍が終焉に向かう今、花見に近くの城山に行く計画を検討している。利用者は何を楽しみにしているのかに向き合い、実施出来るよう取り組んで居る姿勢は評価したい。又、夏には車でのドライブにも行き多くの外出の機会を作り、ブログで情報を発信している。畑では草むしりや水をやり、収穫が楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感により買い物は中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から手紙や電話が来たりする利用者様有。会話がスムーズに行える様に、またお手紙の返事を書く事支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースやリビング廊下等に、殺風景にならないように季節感を感じられる様に掲示物を飾り配慮している。また皆様で協力してと作り上げた物、写真を飾り記憶への働きかけの配慮している。	リビングは大きな窓から日光が入り、窓から見える田んぼには稲が実り自然環境に恵まれている。温度や加湿器と洗濯物を干して湿度管理をし、朝には窓を開けて空気の入替えをしている。利用者はテレビを観て、ソファに座って好きな様に過ごし、気の合う同士で話をして寛いでいる。毎月一枚の大きな紙に桜や正月飾り等の塗り絵や折り紙の壁紙を作成し、書初めの習字も飾っている。レクでは声掛けをして「ゲーム・体操・標語の声出し等」を行って楽しめる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で過ごしていただける様、こちらから居場所の指定は行ってはいないが大体が過ごされる場所が定着されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、出来るだけ馴染みの物を持ってきて頂けるようにお伝えしている。またまた危険性のある物でない限りは持参物の制限は行っていない。	居室はベットと大きなクローゼットが備え付けられ、使い慣れたタンス・収納棚・テレビ等を持ち込んでいる。ぬり絵や家族・孫の写真、誕生日カードや敬老会の表彰状とを飾って自分の居室となっている。温度とタオルをかけて湿度管理、毎日清掃、衣類の管理、トイレの位置や車イスの向きでベッドの位置を変えて使いやすい工夫をしている。夜間の巡回はトイレ誘導・安否確認をし、ゆっくり寝てもらえる事を大事にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有トイレや浴室には解かりやすい様に名称を表示している。また居室・リビングにはカレンダーを設置し日付の働きかけを行うようにして、またリビングには時間が分かるように大き目の時計を設置している。		

目標達成計画

作成日：令和 5年 3月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍において外出・面会等出来ない事により、ご利用者様の不満、ストレスが溜り、また近隣の方との付き合いがなくなっていた。	散歩等、外出しストレス解消し近隣の方との関係性を再構築していく。	近隣を散歩等しながらご近所の方に挨拶していくと共に外出の機会を増やしていく。ご家族様の面会を促していく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					
4					
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。